



陸前高田から届いた、忘れられない風景の記録。映像作家・小森はるか、待望の劇場長編デビュー作。

## trace of breath

監督・撮影・編集: 小森はるか  
編集: 秦岳志 整音: 川上拓也 特別協力: 濑尾夏美  
プロデューサー: 長倉徳生、秦岳志  
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金  
製作: カサマフィルム+小森はるか 配給: 東風  
2016年/93分/HD/16:9/日本/ドキュメンタリー  
[www.ikinoato.com](http://www.ikinoato.com)



## ひとりのたね屋が綴った、彼の町の物語 いまは、もういない誰かへ、まだいない誰かのために

岩手県陸前高田市。荒涼とした大地に、ぽつんとたたずむ一軒の種苗店「佐藤たね屋」。津波で自宅兼店舗を流された佐藤貞一さんは、その跡地に自力でプレハブを建て、営業を再開した。なにやらあやしげな手描きの看板に、瓦礫でつくった苗木のカート、山の落ち葉や鶏糞をまぜた苗床の土。水は、手掘りした井戸からポンプで汲みあげる。

いっぽうで佐藤さんは、みずから体験を独習した英語で綴り、自費出版していた。タイトルは「The Seed of Hope in the Heart」。その一節を朗々と読みあげる佐藤さんの声は、まるで壮大なファンタジー映画の語り部のように響く。さらに中国語やスペイン語での執筆にも挑戦する姿は、ロビンソン・クルーソーのようにも、ドン・キホーテのようにもみえる。彼は、なぜ不自由な外国語で書き続けるのか? そこには何が書かれているのだろうか?



ふわりとした、けれど、確かなまなざし  
まるで、生まれたばかりの映画のように

監督は、映像作家の小森はるか(『the place named』、『波のした、土のうえ』\*瀬尾夏美との共同制作)。震災のあと、画家で作家の瀬尾夏美とともに東京をはなれ、陸前高田で暮らしあげた彼女は、刻一刻とかわる町の風景と、そこで出会った人びとの営みを記録してきた。失ったものと残されたもの。かつてあったものと、これから消えてゆくもの。記憶と記録のあわい。そのかすかな痕跡とぬくもりを彼女はうつしだしていく。あの大きな出来事のあとで、映画に何ができるのか。そのひとつの答えがここにある。

□ 2023年3月31日(金)

□ 18:30~20:10

□ 京都大学 稲盛財団記念館 1F  
旧・京都賞ライブラリー

- 主催: 京都大学東南アジア地域研究研究所「映像で学ぶ東南アジアの文化と社会」
- お問い合わせ [kamiya@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:kamiya@cseas.kyoto-u.ac.jp) (神谷)

入場無料

来場者事前登録にご協力ください  
<https://forms.office.com/r/rjF72v7pMr>

